

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	NPO法人 ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家 のど家		
所在地	勇払郡厚真町京町31番地1		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が充実した日々を送り、いつも笑顔でのんびり過ごせるような、支援が出来るように努力しています。
 ・初めてホームでの「看取り介護」を実践することがあり、介護保険法の基本理念である「利用者の尊厳の保持」当ホームで実践する看取り介護は「住み慣れた町で、その人らしく最後まで」という理念を実現する事ができ、本人と家族の意向を尊重して行うことができたと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

＜役割、楽しみごとへの支援＞
 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら漬物漬けやとうきび狩り、スイカ割りや地元の人々が多く参加する夏祭りを開催して馴染みの人との交流、紅葉狩りや列車で夕張まで旅行したり、町内で夕食をするなど楽しみごと、気分転換等の支援をしている。
 ＜日常的な外出支援＞
 一人ひとりのその日の希望にそって、ハスカップ狩りや野菜の収穫、七夕祭りや地元のお祭り参加、えがおの家花火大会開催や日常的な散歩など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、回転寿司やレストランでの夕食、昼食のお弁当を持参してJRで夕張まで旅行に出かけるなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に多く出かけられるように支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	えがおの家基本理念・ケア理念を定め、採用時研修や月2回のケア会議において適宜確認している。玄関・事務所・ケアステーション・休憩室に提示し、日常的な啓発に努めている。	理念の実践や達成の為に、個々の職員が具体的な目標を掲げ、その達成度を評価し、サービスの向上に活かしている。また、月2回実施の全体会議やケア会議で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には積極的に参加し、ホームのイベント等利用者様と声かけし、参加するよう努めている。	地元の人々との交流は盛んに行われ、保育園児との交流や中学生の体験学習の受け入れ、夏祭りには、ボランティアや地元の多くの方が参加して餅まきや演芸を披露するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学校の職場体験の場の提供や町内在住の職員は地域の「安心ネット」会員となり地域貢献に努めている。ホームの夏祭り開催ではポスターで地域の方へ参加を促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域包括・近隣住民の方や商店の方に参加して頂き、利用者様の状況、ヒヤリハットや活動報告等を行い情報交換が出来るよう、運営推進会議を開きサービス向上の努力を行っている。	運営推進会議は年6回を目安に開催し、看取りの実践についての報告や事故防止対策など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やホーム行事にもできるだけ参加して頂き、実情を把握して頂きながら地域包括支援センター等の職員との意見交換等で協力関係を築けるよう努力を行っている。	町担当者や包括支援センター職員とは、日常的に情報交換や連絡を取りながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修や内部・外部研修を行い職員全員が理解し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は職員体制と外部からの安全性も含め夜間時のみ行っている。	指定基準における具体的な禁止の対象となる行為を内部研修会開催や外部研修参加で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修や事業所独自の虐待防止自己評価チェック表で職員全員が自分のケアを振り返る事で虐待防止の意識を強く持ち全職員が防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において成年後見制度を課題に取り上げ、学んではいるが現状では全職員の理解は不十分と思われ、今後も全職員が理解できる機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・パンフレットにより十分な説明を行い不安や疑問点には理解・納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情・相談窓口」を玄関に掲示し、日頃より利用者、ご家族とのコミュニケーションを図りご家族の訪問時等にはご意見やご不満を伺えるよう、都度、改善に努めている。	利用者・家族等が意見や要望等を言い表せるように苦情・相談窓口の掲示をしている。また、家族や地域の人達が困りごとや相談など気軽にできるようにサロンを併設している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の全体会議やユニット会議を開催し職員達が意見を出し合い業務改善に反映出来るよう努めている。	全体会議やユニット毎の会議を定期的を実施し、職員の意見や要望等を聞く機会を設けて、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。職員の離職は低く、連携がとれていることがアンケート結果から伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は業務内・外においてスタッフの状況を把握し職場環境、条件等の整備に努めている。給与水準、特別休暇等考えてくれており現状において今の環境条件は妥当を考えられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、内部研修を実施し、年間の外部研修予定の他にも、職員一人ひとりの力量に応じ内外の研修などにも積極的に参加させ資格修得のための財政的支援を実施しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHの催事においてお互いに入居者様と一緒に参加したり、地域での研修の受講等で同業者と馴染みになり、情報交換や意見交換が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接をしアセスメントを行うとともに今までの生活歴や本人の思考、趣味等可能な限り家族や入居前の担当ケアマネより情報を収集し本人の望む生活を支援できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご本人とご家族と一緒に見学して頂いたり、ホームの雰囲気や日々の生活の写真を見て頂くなど不安な事や要望などに目を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や入居時にご本人とご家族の意向や要望をしっかり聞き、把握して安心してサービスを受けれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者は入居者を人生の先輩としての意見を聞きながら、できる事と出来るがしない事等を見極め、共に暮らす者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には近況報告を含めご本人の思いを伝えるようにしたり、行事等にも参加して頂けるようお知らせをしながら、入居者との絆を大切にし、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会は自由に過ごして頂ける環境作りに努め、美容室や買い物など馴染みの場所への外出希望は極力対応できるよう努めている。	地元商店での買い物や外食、地域のお祭り参加や季節毎の行事の開催で、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の相性や好みを把握し、トラブルを未然に防げるようスタッフも介入しながら利用者同士が心地よく過ごせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の移住先まで訪問する事はないが家族様と会った時近況等を聞き、退居後のお見舞いや亡くなられた時などはお参りに伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、日々の関わりの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努めている困難な場合は家族からも聞くように心がけている。	本人・家族の希望や意向の把握に努め、漬物漬けやおやつ作り、回転寿しやレストランでの外食など本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に本人・家族・ケアマネ等からの情報収集したり、日々の関わりの中で昔話を聞くなどしながら、これまでの生活歴や生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り・生活の記録・会議等で情報の共有を行い、利用者の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや気づきを全体会議やユニット会議で検討し現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の希望や意向、医師・看護師からの指導や助言、全体会議やユニット会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録にバイタル・水分・排尿排便等の記録や処置を行っている利用者の処置チェック表の活用も行い、全職員が情報共有することができ、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズには職員の共通認識のもとで柔軟な対応が出来るよう努めたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加し、ボランティアのライブや踊り、手品等ホームに来て頂き沢山の交流を楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入居前からの主治医であり緊急時や往診にも対応して頂けている。診療所の理事長は法人の顧問でもあり、日々の関わりがあり関係は築けている。	昼夜の緊急時にも協力医療機関との連携がとれていて、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から週2回看護師の訪問があり身体状況・体調変化などを相談しながら受診の必要性や対応等を検討している。昼夜間の緊急時は電話連絡にて対応できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合の医療機関への情報提供や入院の状況や退院についての話し合い、早期退院に向け情報交換の関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約説明時に「重度化した場合の看取り指針」の説明を行っている。家族と相談しながら指針に沿った対応を行いホームで出来ること、すべき事を職員間で共有している	本年、看取りを実践している。また、早い段階から重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはいつでも回覧出来るようになっている。内部・外部研修等を利用しながら全職員がAEDの操作方法などを周知出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	厚真消防署の方達と火災訓練を行い、全職員が連絡体制等を確認しているが今後も定期的な研修を行っていききたい。協力体制としては、隣人に緊急時の応援をお願いしている。	スプリンクラーや通報装置、報知機等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、消防署の協力を得て火災避難訓練を実施し、近隣住民へ緊急時の連携を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格と尊厳を損なわないよう常に注意しながら声かけを行うよう心がけている。	不適切なケアの振り返りを定期的に行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の思いや希望を汲み取れるよう心がけ日々の飲み物やその日に着る服、外食時や出前のメニューを選んで頂くなど自己決定出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせその日の体調や気分配慮し、言葉使いにも注意しながら入浴や外出の希望に沿えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の尊厳を守りながら、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、声かけやお手伝い出来るよう心がけている。特に男性入居者が多い為起床時の髭剃りに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を尊重しながら、献立・準備調理補助・片付けなど一緒に行っている。利用者と一緒に自家菜園で栽培した野菜を利用したりして楽しんでいる。	菜園で収穫した野菜で漬物漬けを行ったり、献立や調理の準備、味付けや後片付けなど職員と一緒にいき、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のチェックシートに食事量・水分量など記入することで全職員が把握できる。自然排便を目標に食物繊維や麦飯の摂取と毎食事の主食の量を計るなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者への見守りと、介助が必要な入居者への声かけ、介助を行っており、ほぼ毎回毎食後の口腔ケアは出来ている。舌苔がある方は舌ブラシでのケアも行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しその人に合った声かけやリハパン・パットの検討を行い出来るだけトイレでの排泄が継続できるよう支援している。リハパンから布パンツに変えられた利用者もいる。	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、薬剤を使わずに自然排便ができるように食物繊維の多い食材を全ての職員が内部研修を通じて学び、献立への反映や飲食物の工夫、水分量の把握や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤を使わず自然排便を目指し食物繊維の多い食材を全職員が学習し、水分量等把握しながら献立を工夫してはいるが薬剤で調整すること事も多い。排便管理表を確認しながら看護師と連携を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午前・午後と入浴できるため本人の希望に合わせて無理強いすることなく清潔が保てるよう努めている。拒否が多い方にもタイミングを見ながら声かけし、入浴して頂けるよう支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟に入浴支援をしている。また、重度化しても安心して入浴できるようにリフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握しその時の体調や希望に応じ自由に休めるよう支援し、各居室の温度等の環境整備にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し個々の服薬内容を把握し、目的・副作用などを理解しながら薬の変更時には記録・申し送り連携を図っている。服薬時誤配・誤薬のないよう、その場のスタッフ全員で確認を行い自分で飲める方でも飲み込むまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事を把握し、手芸・調理・家事カラオケ・畑仕事など入居者のその日の体調、気分に合わせて声かけしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・畑仕事やその他の外出には極力添えるよう努めている。花見や紅葉見物、外食等でも外出機会を設けている。ホームでの外出行事以外の、個人の町外の外出はご家族の協力を頂いている。	ハスカップ狩りや野菜の収穫、七夕祭りや地元のお祭り参加、日常的な散歩など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、回転寿司やレストランでの外食、昼食のお弁当を持参してJRで夕張まで旅行に出かけるなど普段は行けないような場所へも出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の同意の上お金を所持している利用者は数名おり、買い物等で使えるようにしているが高額な時は家族様へその都度連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自由に電話を使えるようになっていく。自分でかけられない方には職員がお手伝いしている。家族宛の年賀状作りの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、各居室の湿度・温度の管理については湿度計で確認し快適に過ごせるよう配慮している。季節感が感じられるように共用空間のディスプレイに気をつけている。	敷地内の菜園で野菜が作られていたり、共用の空間には季節毎の飾りや行事毎の写真が掲示されるなど季節感や生活感を採り入れて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用空間では、気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に「離れ」があり一人で過ごしたり、気の合った利用者同士が心地よく過ごせるよう移動時にも声かけを行うようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の事前面接には出来る限りご自分の使いなれた家具や写真等利用者や家族の思いを尊重したものを持ってきて頂けるよう伝え、自分に馴染みのあるもので少しでも安心した生活環境で過ごせるように工夫している。	居室は、清潔感が漂い、本人の手作りの作品や家族の写真等が飾られていたり、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口には個々の表札や解りやすいを掲げ浴室には暖簾を提げるなど一人でも分かるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	NPO法人ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家 ほの家		
所在地	勇払郡厚真町京町34-1		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・ご家族様・職員全員がえがおのたえない生活が出来るよう、日々様々な活動を取り入れ、共に生きる喜びをわかちあいながら生活しています。
野菜の栽培、ホーム周りの草取り、収穫した野菜を使った調理、漬け物作り、手作りのお茶やふりかけ・つくだに作りなどなど、利用者様の知恵を借りながら職員が日々学ばせて頂いています。
ホーム開設3年がたち、スタッフも定着してきた事もあり、行事等もマンネリ化にならないよう、職員でアイデアを出し合い、新しいことにどんどんチャレンジしていけるようチームで利用者様・ご家族様を支えていく意識を常に持ち仕事に励んでいます。
今年7月にはホームでは初めての看取りをさせて頂きました。不安もたくさんあった中ですが、一人一人が本人のために何ができるかを良く考え、限られた時間の中で精一杯のお手伝いができたと思います。今回の看取りを通して、本人の思いやご家族の葛藤、職員の意識など、多くのことを学ぶ機会を与えて頂いたことに全員が感謝し、次のステップに大きく役立てていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者の</div><div>2. 利用者の2/3くらいの</div><div>3. 利用者の1/3くらいの</div><div>4. ほとんど掴んでいない</div></div>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての家族と</div><div>2. 家族の2/3くらいと</div><div>3. 家族の1/3くらいと</div><div>4. ほとんどできていない</div></div>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<div><div>○</div><div>1. 毎日ある</div><div>2. 数日に1回程度ある</div><div>3. たまにある</div><div>4. ほとんどない</div></div>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ毎日のように</div><div>2. 数日に1回程度</div><div>3. たまに</div><div>4. ほとんどない</div></div>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<div><div>○</div><div>1. 大いに増えている</div><div>2. 少しずつ増えている</div><div>3. あまり増えていない</div><div>4. 全くない</div></div>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての職員が</div><div>2. 職員の2/3くらいが</div><div>3. 職員の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての家族等が</div><div>2. 家族等の2/3くらいが</div><div>3. 家族等の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどできていない</div></div>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<div><div>○</div><div>1. ほぼ全ての利用者が</div><div>2. 利用者の2/3くらいが</div><div>3. 利用者の1/3くらいが</div><div>4. ほとんどいない</div></div>			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ステーションや廊下などホーム内の至る所に掲示し、会議等で理念の意味を話し合い、全員が目指すべき目標として念頭に置き、意識して日々の業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催し物には積極的に参加し、地域の方達が気軽にホームを訪ねてもらえるような関わりを心がけている。介護予防「いきいきサポート」の方達が帰宅送迎前に立ち寄ることもあり、昔なじみの友人と会える機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護お気軽相談窓口、茶話処「カタローネ」の一般開放、学生の介護実習や福祉体験学習の受入、銀行のロビーに利用者様の作品を展示し地域の方達に日頃の活動を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生委員、地域の方に参加頂き、写真を見て頂きながら行事・活動・取り組みなどの報告、反省点など伝え、意見交換をしているが、もう少しサービス向上に繋がる会議の場になるような工夫を考えていきたい。一緒に参加できる事も増やしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただいたり、認定調査に来訪された時などに実情、取り組みなどを伝えるように心がけている。また、入居相談などは電話連絡のみならず、直接話し合いが出来るよう協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外部研修で勉強する機会をもうけ、原則身体拘束は禁止という考え方を共有している。今後も全職員が正しい理解が出来、困難事例がでた場合を想定した、話し合いの場を多くもてるよう努めていきたい。施錠については、防犯上の理由から夜間のみ行っているが、日中は離脱事故に繋がらないよう見守りしながら、誰もが自由に入出入りできる環境になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修で勉強する機会があり、会議等で話し合う場を設け、自分たちのケアを振り返り虐待防止に努めている。日頃の利用者様とのかかわりの中でも言葉遣いや態度を振り返り、不適切なケアにならないよう、職員同士がお互いに話し合える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までには、内部研修や伝達講習で議題にしたことはある。また、個人的に研修にでたり学んでいる職員はいるが、現状として利用者様や家族、親族などの中に制度を活用しなければならない方が居ないため、学ぶ意識は低い。学ぶ機会を増やしていく努力をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類等を読み合わせしながら十分に説明し、補足説明を行いながら不安や疑問な部分を解決確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情・相談窓口」を掲示し、意見・要望を言い表せるようにしている。家族面会時には日頃の様子をお伝えし、気軽に要望や相談出来る環境を心がけ、苦情・要望・相談票を作成し会議等で検討し、都度改善に努めるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、各ユニット会議で、意見や提案を聞く機会としている。また、状況に応じて緊急の会議や個別面談を実施し、話し合いが行われている。日頃から気軽に相談しやすい環境作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の助成や内部研修講師の手当支給、外部研修受講の助成があり、また 母子家庭子育て支援、住宅手当の支給、家庭状況に合わせた柔軟な勤務体系、特別休暇の付与など職員全員が向上心をもって安心して働ける環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や経験年数に応じ、全員が外部研修を受けられるよう年間研修計画を作成し、積極的に参加出来る環境である。全体会議の中で内部研修をひらき得た知識を実践に活かすよう努力している。日々のケアの中で知識として持っていなかった事柄を題材として適宜勉強会を開いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会との合同研修を開催、近隣GHにも参加いただきサービス向上の取り組みをおこなった。町内外の催事にも互いに訪問し合い、利用者を含めた交流も多く取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接段階から本人の要望や不安を聞くように心がけ、趣味や生活歴も把握し、職員全員に会議等で情報を共有、入居開始段階で本人が安心して暮らす生活が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人同様に事前面接段階から要望・不安を聞き、利用開始後の面会の際は、本人の暮らしぶり等をお伝えし、新たな要望等に対応するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話と担当ケアマネの情報を基に、分析を行い、入居後の本人の生活を細やかに観察・記録し、本人・家族のニーズや援助内容を職員間で話し合い支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事出来ないことをよく見極め、調理・掃除・買い物等、一緒に出来る場面を多く提供している。作業の中で自信喪失に繋がらないよう見守り、声がけにも配慮している。また、本人の可能性を信じ、潜在能力を引き出せるよう努力している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも参加出来る行事を計画し、一緒に過ごす時間を大切にしている。普段の面会時には近況を報告しながら、食事やおやつと一緒に食べて頂けるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会が日常的にある。町の行事には積極的に参加し、友人知人と顔を合わせられるよう心がけている。入居前にやっていたサークル活動の方を招いて一緒に過ごせる時間を増やしている。外出希望には迅速に対応できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席以外でもゆったりと利用者同士が集える環境を整えており、職員を交えて一緒に過ごしより良い関係が気づけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院先へお見舞いに行ったり、亡くなられた方の葬儀に参列している。差し入れを持って遊びに来られるご家族もいて、良い関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人の思いや意向を把握するよう努めている。意思表示が困難な場合は表情や行動、ご家族からの情報をもとに本人の思いをくみ取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時に本人・ご家族より十分にお話を伺うように努めている。担当ケアマネからも情報をもらい、利用経過の把握を行っている。入居後も関わりの中から生活歴等を把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを多く持ち、本人の言葉や動作を観察し、職員と一緒に出来ることの場を増やして、現状把握するよう努めている。申し送りや会議等で話し合い、職員全員が情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から思いや要望をきき、申し送り・会議等で話し合い職員全員がその方が安心して暮らしていける環境作りの意見を出し合い、計画書を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、バイタル、水分等を時間ごとに記録し、職員全員が情報を共有できるようになっている。特記事項には体調変化や本人の訴えをそのまま記入し、その後の結果までを把握できるよう記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に臨機応変に対応するよう努めており、外部のボランティアや職員家族の協力も頂きながら、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加し、様々なボランティアの方の協力を頂きながら昔なじみの季節の催事を大切にして、本人・ご家族・職員が一緒に楽しむことができる環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、希望にあった医療の継続を支援している。通院困難時や緊急時は往診頂き、休診日等はホーム担当の看護師より医師に連絡を取れる体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回の看護師訪問があり、身体状況や皮膚状態を報告し、体調管理や健康相談、その他必要な指示を受けている。24時間オンコール体制があり、細やかな連携がとれている。緊急以外は「看護師連絡ノート」に記載し情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関への情報提供を行い、面会の際に担当看護師等に現状を伺い、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化・看取り指針」の説明を行い、家族のご理解とご協力をお願いしている。管理者、看護師、ご家族を交えて生活支援の話し合いが出来る機会を持つよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルはいつでも閲覧出来るよう設置している。内外研修等で学ぶ機会はあるが、定期的に訓練をするまでには至っていない。実践が身に付いている職員にばらつきがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員全員が参加し、連絡体制や避難誘導方法の確認を行っている。隣人に緊急時の応援を頼んではいるが、地域との協力体制が現在も確立されていない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で定期的に声がけや不適切ケアにつながらないよう、スタッフ間で話し合い、日々のケアの中で常に意識して仕事をするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい、答えやすい声がけを心がけ、食べたいものや飲みたいもの、服や靴下を自分で選び決めることが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、排泄等、無理な声がけはせず、本人の自由な時間帯や場所選びできるように努め、希望に添っておもいおもいの時間で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大きなイベントや外出行事の際にはお化粧をしたり、よそ行きの服を選びおしゃれできるよう支援している。髭や整髪には常に気を配り整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の方のみならず、男性の方にも調理を手伝ってもらっている。テーブル拭きや茶碗拭きなどは本人の日課、役割として定着している。時々「洗い物じゃんけん」という真剣勝負をすることがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録し、特記があれば申し送り等で情報共有して職員全員が把握できるようにしている。水分は1日1500ccを目標とし、便秘解消のため食物繊維を多く取り入れたメニューを心がけている。体重増減にも注意し食事量を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時 食後に口腔ケアを実施。個々に合わせて舌ブラシ、歯間ブラシ、口腔スポンジなどを検討し使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力を良く観察し、排泄パターンを読み取り紙おむつから布パンツに移行できた方が3名居る。随時、申し送りや会議等で話し合い、本人の望む排泄の形を配慮しながら検討し、おむつやパットを減らす方向で、形状などを考え支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	会議内部研修等で勉強会を開き、バランスのとれた献立、食物繊維を多く含む食材を毎食一品盛り込むようにしている。運動不足になりがちであるため、室内外で楽しんで体を動かせる企画を考え実践している。個々にサイクル運動を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の午前午後浴を実施。本人の体調や希望に添った入浴を行っており、ユニット間の連携を取りながら、リフト浴 同姓介助できるよう努めている。時には職員も一緒に入浴し、浴室で熱唱しながら裸のつきあいをすることがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に合わせて自由に休息できる。居室に限らず離れやリビングソファで休める環境がある。夜間良眠出来るよう日中の活動を増やしたり、室温・湿度・照明にも配慮している。眠れない時は職員と一緒に会話やお茶のみをしながら時間を過ごす。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成し、いつでも薬情報がすぐに分かるようになっている。内服薬に変更があった場合、どのような副作用があるか職員全員が把握し、身体状況観察を強化する。小さな事でも記録に記載し、病状を早期発見できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、好み 能力を把握し畑仕事、調理、家事、遊びなど個々に支援している。茶碗洗いや食器拭きなどは本人の毎日の日課となっており、自分の役割として定着している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物へ出かける機会は多い。個々の希望にもすぐに対応できるよう職員連携を取りながら実施している。ご家族様の協力もあり、自宅へ外泊・温泉旅行・外食などにも行ける機会がある。理事長・事務職・JR・観光協会とも協力し「車で行く秋の紅葉見学ツアー」を計画		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、個人でお財布を持っている方は、希望に応じスーパーへ出かけ日用品やおやつを購入している。個人持ちしていない方にも購入希望があれば預かり金の中から自由に買い物が出来るようご家族様の方を承をいただいて買い物支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、自由に電話の使用ができる。自分ではかけられない場合は職員が援助に入り支援している。手紙のやりとりは行っていないが、年賀状書きは毎年継続して実施しておりご家族や友人宛にかいてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾品を作成したり、花畑の花をつんだりして玄関、リビング等様々なところに飾り付けをしている。壁には行事や日常風景の写真を掲示、ご家族来訪の際に見て頂いている。プラズマイオン・空気清浄機・加湿器を設置。温度、湿度にも注意し朝の喚起や温度調整をこまめに行うようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、渡り廊下など至る所にソファを置き、テレビ前は広くスペースをとり、利用者・職員が集いやすい環境を作っている。廊下の一角には「離れ」があり、隠れ家的な空間もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談時や面接時に環境整備の重要性をお伝えし、馴染みある使い慣れた物をお持ち頂けるよう説明している。家族の写真やぬいぐるみを飾り、施設的にならないよう、生活感のある居心地良い空間整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等が分かるよう表れを付けたりしている。日めくりカレンダーをつけ、日にちが一目で分かるようにしている。整理整頓に心がけ安全な環境になるよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム えがおの家

作成日: 平成 26年 11月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	44	排便に薬を服薬している人が数人いる。	・自然排便が出来るよう食事のバランスに 気をつける。 ・楽しんで運動してもらう。	・食物繊維の摂取に特に配慮した献立への取 り組み。 ・ホーム内を歩いたり、エアロバイク等の運動 の取り組み。	1年
2	48	部屋で過ごす利用者が多く、楽しみや気分転 換が出来ていない。	・利用者への役割支援の実施。 ・利用者が楽しみをもてる支援。 ・外出等の気分転換。	・利用者の好みに合わせ家事や手芸などの声 かけ。 ・カラオケ等みんなで楽しめる事への声かけ。 ・天気の良い日の外出の声かけ。	1年
3	13	今後の利用者様の重度化・終末期ケアに向け て知識、技術を高めていきたい	本人・家族の意思を最大限尊重し、住み慣 れた町で最期まで自分らしく人生を送れる よう努力する。	・職員一人一人が死生観を確立できるよう、緩 和ケア・精神的ケアの様々な知識を身につけ 実践できるよう内外部研修で勉強する機会を 多く持つ。 ・日頃より利用者様が望む生き方を考えながら 支援していく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。